

編集 後記

編集顧問 町田豊平
編集委員 郡健二郎

小川秋實 秋元成太 村井 勝
藤岡知昭 大家基嗣

衝撃的な手術書を研修医の机で見つけました。それは、医学書院より出版された、加藤晴朗著『イラストレイテッド泌尿器科手術 図脳で覚える術式とチェックポイント』です。以前から、小川秋實著『膀胱全摘除と尿路変向・再建のテクニック』の改訂版(?)といえるような手術書を執筆したいと考えていましたので、加藤先生に「やられた!」というのが小生の正直な気持ちでした。

加藤先生は、信州大学の講師を務められている、まさに旬の中堅泌尿器科外科医です。加藤先生は、手術のイラストを描くためには、視覚的な観察力に加え、術式や外科解剖を理解した上での問題意識や統合力の重要性を強調するために、独自に【図脳】という造語を用いています。「手術は、1つ1つの手技(図)の連続よりなり、その手技を合理的な順序に従って完遂すれば、手術は滞りなく終了する」という記述は、真髄をついた表現と共感できます。特に小生が「こだわり」をもっている膀胱全摘除術の項では、典型的術式に加え、子宮摘除の症例、膀胱瘻から発生した膀胱癌症例、bivalved cystectomyなどの難解な術式を、膀胱再建術などで世界的に著名な Abol-Enein 教授のところへ留学した体験をもとに作成した多くのイラスト構成により、明快に解説されています。「手術の習得は、ある程度の段階にきたら思い切って最高の手術を見て学ぶのも1つの方法」という著者の主張は、同様な体験をもつ小生も同感であり、若い読者の皆様に伝えたい貴重なメッセージであると思います。『イラストレイテッド泌尿器科手術 図脳で覚える術式とチェックポイント』は、泌尿器科研修医の皆様には推奨したい名著であると断言いたします。

さて、今月号の総説は、日本大学の高橋悟先生による「骨盤臓器脱に対する TVM 手術」で、骨盤臓器脱の病態と TVM 手術の手技、さらにはその現状と課題について解説された興味深い内容です。TVM 手術の適切な日本語表現はないものでしょうか。編集会議で話題になったことがあります。

手術手技は、奈良県立医科大学の平山暁秀先生と聖路加国際病院の福井準之助先生による女性尿失禁に対する開腹手術2編です。TVM 手術が全盛な現在において、若い読者の皆様には貴重な解説です。

セミナーは、京都大学の福島雅典先生による「ここまできたトランスレーショナルリサーチ」の「アカデミアにおける新規医療技術開発促進のために」で、泌尿器科学を超えた示唆に富む内容です。医学研究のシーズの医療への利用の可能性に関し短期間に検証するためには、薬事法に基づく治験の開始前に医師主導の臨床研究による探索研究もあると思うのですが、いかがでしょうか。もちろん、医療として確立するためには、新たに薬事法に基づく治験の追加が不可欠であることは承知しています。いずれにしても、今後の医療の変革のために、ますます活発化していくべき重要課題だと思います。

その他、症例報告が5編、小さな工夫が2編と盛りだくさんの内容です。

(藤岡知昭)

臨床泌尿器科 (第62巻 第5号) (通巻739号)
2008年4月20日発行 (毎月1回20日発行)

定価 2,835 円 (本体 2,700 円+税 5%)
2008 年 年ぎめ予約購読料 (増刊号を含む 13 冊)
41,360 円 (税込・送料サービス)

発行 株式会社 医学書院
代表者 金原 優

〒113-8719 東京都文京区本郷 1-28-23
電話 本誌編集室直通 (03) 3817-5709
(担当: 登・渡辺・中田)
販売部直通 (03) 3817-5659・5660
ファクシミリ (03) 3815-7802

E-mail: rinpi@igaku-shoin.co.jp
振替口座 東京 00170-9-96693 番
印刷所 三報社印刷(株) 電話 (03) 3637-0005
広告申込所 (有)文京メディカル 電話 (03) 3817-8036

- ・ Published by IGAKU-SHOIN Ltd., 1-28-23 Hongo, Bunkyo-ku, Tokyo © 2008, Printed in Japan.
- ・ 本誌に掲載された著作物の複写・複製・転載・翻訳・データベースへの取り込みおよび送信 (送信可能化権を含む) に関する許諾権は医学書院が保有しています。
- ・ 医学書院ホームページ (インターネット) は Web <http://www.igaku-shoin.co.jp> です。
- ・ 「臨床泌尿器科」のページは <http://www.igaku-shoin.co.jp/mag/rinpi/> です。
- ・ JCLS < 日本著作出版権管理システム委託出版物 >

本誌の無断複写は著作権法上での例外を除き、禁じられています。複写される場合は、そのつど事前に日本著作出版権管理システム (03-3817-5670) の許諾を得てください。